

# 令和6年度電源立地地域対策交付金の活用 (農業試験分析機器等の整備)

電源立地地域対策交付金は、発電用施設の周辺地域における公共用施設の整備や企業の産業関連技術の振興のための事業に対して交付金を交付することで、発電用施設の整備に係る地元の理解促進等を図ることを目的としています。

令和6年度はこの交付金を活用して、農林水産研究所、果樹研究センター、みかん研究所において次の5つの機器を導入しました。

## 1. 超低温フリーザー（果樹研究センター）

果樹研究センターでは、微生物を用いた病害虫防除試験や機能性成分の分析試験などを実施しています。超低温フリーザーでDNA、RNA、タンパク質、細胞抽出物などの様々な生物サンプルを劣化させることなく長期保存することで、貴重な遺伝資源を維持し、今後の品種開発や病害虫診断技術の精度向上に応用することができます。これにより、かんきつをはじめとした果樹の高品質栽培技術の確立・普及につなげます。



## 2. 蒸留水製造装置（農林水産研究所）

農林水産研究所では、農産物の残留農薬検査を行っています（年間 500 検体）。この検査には蒸留水製造装置で製造した清浄な水が不可欠です。今回機器を更新したことで、特に南予地域で生産量の多いかんきつ等について、残留農薬検査を継続して実施することができます。これにより、農薬適正使用の強化推進ならびに当該農産物の安全性確保に貢献します。



### 3. 電気泳動ゲル撮影装置（みかん研究所）

みかん研究所では、かんきつ類の新品種の育成や、品種識別技術の開発を行っています。電気泳動ゲル撮影装置を使うことで、愛媛県が開発した品種かどうかの判別や、病原ウイルスの検査を行うことができます。これにより、愛媛県が開発した品種を守り（侵害防止）、健全な種苗の供給に大いに貢献できると考えられます。



### 4. クリーンベンチ（果樹研究センター）

クリーンベンチは、植物組織や細胞の培養操作、病原菌の単離操作等を行う上で必要不可欠です。本装置を導入することにより、ゲノム編集技術などを利用した新品種の開発や、病原菌の生態解明などに活用し、南予地域を中心とした果樹産業の振興に大いに貢献できると考えられます。



### 5. 施肥播種機（農林水産研究所）

農林水産研究所では、水稻・麦・大豆などにおいて、省力栽培である直播栽培や不耕起栽培技術の検討を行っています。今回導入した施肥播種機は、車速に応じて播種量を調節することができるため、ほ場条件等に左右されずに均一に播種することができます。これを使って、省力技術の効果検証を行い、水稻直播栽培を行う地域や、大豆生産地域における技術普及につなげます。

